

企画展

山形印刷文化の 発展

場所／山形県立博物館
第三展示室

会期／平成十年九月十二日(土)
十一月十五日(日)

やまがたの
印刷文化

山形県立博物館長

開催にあたって

江戸時代から明治にかけて、山形でも数多くの出版物が発行されました。

これらは、山形の印刷技術の水準の高さを示すとともに、学問や文芸の普及、寺社参詣の隆盛など人々のくらしの豊かさを示すものです。

本展は、当時山形で印刷・発行された代表的な冊子や板木・版画を展示し、山形の文化を探ろうとするものです。



彫師

摺師

本屋

開館時間 4月1日～10月31日 午前9時～午後4時30分
11月1日～3月31日 午前9時30分～午後4時30分

入館料 大人／300円 小人／150円 学生／150円
毎月の第2・第4土曜日は小・中学生・高校生は、入場無料になります。

[主な展示資料]

- 1.百万塔(本館所蔵)
- 2.無垢浄光陀羅尼經(本館所蔵)
- 3.摺り道具一式
文机・刷毛・洗い刷毛・ハレン・削墨・墨壺・石州紙(財)致道博物館所蔵)
- 4.製本道具一式
裁断刀・砥石・製本板・L字形板・火のし・コヨリ・絹糸
大福帳締め・木追(財)致道博物館所蔵)
- 5.論語板木庫(財)致道博物館所蔵)
- 6.論語致道館蔵板木・県重要文化財(財)致道博物館所蔵)
- 7.致道館版・論語・孝教・大学中庸・尚書・毛詩(財)致道博物館所蔵)
- 8.四家妙絶(本館所蔵)
- 9.得処遺稿(本館所蔵)
- 10.得処遺稿板木(本館所蔵)
- 11.かてもの(本館所蔵)
- 12.さとのしるべ(本館所蔵)
- 13.山形県地理書全(本館所蔵)
- 14.小学読本(本館所蔵)
- 15.養蚕手引(米沢市立図書館所蔵)
- 16.庄内二郡五人組掟帳(本館所蔵)
- 17.引札(本館所蔵)
- 18.句会興行広告(本館所蔵)
- 19.寺津人形芝居文字看板板木
(天童市立東村山郡役所資料館所蔵)
- 20.子ども遊び(本館所蔵)
- 21.山形風板木(五十八胤)福助(本館所蔵)
- 22.山形風板木(柴風)八幡太郎(本館所蔵)
- 23.上山板木風絵(本館所蔵)
- 24.山辺板木風絵(本館所蔵)
- 25.出羽三山山摺板木・朱印(出羽三山神社所蔵)
- 26.お行衣(金井克己氏所蔵)
- 27.庄内三十三観音笈摺(辻喜代子氏所蔵)
- 28.三山詣文章(本館所蔵)
- 29.湯殿山道中版画(本館所蔵)
- 30.湯殿山遠路程指掌之図(本館所蔵)
- 31.湯殿山月山羽黒山一枚絵図(本館所蔵)
- 32.三山総絵図(本館所蔵)
- 33.若松寺祈禱札板木(鈴立山若松寺所蔵)
- 34.若松寺聖観音板木(鈴立山若松寺所蔵)
- 35.若松寺朱印(鈴立山若松寺所蔵)
- 36.元三大師(鈴立山若松寺所蔵)
- 37.最上三十三観音笈摺(五十嵐完二氏所蔵)
- 38.中川木鈴「寸涼」(真室川歴史民俗資料館所蔵)
- 39.中川木鈴寸涼板木(真室川歴史民俗資料館所蔵)
- 40.中川木鈴旧制山形高等学校「雪景」(本館所蔵)
- 41.山形県新築の図(本館所蔵)
- 42.印判手波小紋菊紋飯茶碗(本館所蔵)
- 43.印判手唐子紋中鉢(本館所蔵)
- 44.絵はがき山形県の名所旧跡(本館所蔵)
- 45.豆本・山形豆本会・みちのく豆本の会発行(木俣繁氏所蔵)

◆世界最古の印刷物

現存する世界最古の印刷物は「百万塔陀羅尼」です。天平宝字八年(七六四)から神護景雲四年(七七〇)にかけて、称徳天皇は木造の小塔百万基をつくり、印刷した「無垢淨光陀羅尼經」の陀羅尼(密教の本質を説く呪言)を塔のなかに納め、東大寺法隆寺など十大寺に奉納しました。

そのうち法隆寺に納められたものが大量に現存し、世界最古の印刷物として知られ、その印刷の方法は、木版・銅板の二つの説があります。

◆版行道具

伝統的な印刷の技術は、凸版と凹版の二通りの方法が分かっています。木版は凸版に属し、板の部位の利用から、板目木版と木口木版とがあり、わが国では伝統的に板目木版を主流としています。

版行道具は摺りと製本の二工程から、二冊の本が出来あがります。その手順は、最初に板木に刷毛で墨を塗り、パレンで二枚一枚刷り上げます。刷り上がると「丁合わせ」をし、中央で二つ折りにし、「一枚一枚のし」をします。

次に、目合わせ・コヨリで仮綴り・天地と背を裁断刀で切りそろえ、全体を大福帳で締め、糸道をあけ、絹糸で本綴りをし、最後に題箋を付けて完了します。

◆江戸から明治の印刷

奈良時代に始まるわが国の木版印刷技術は、特に仏教の庇護のもとで室町時代末期に至るまで、仏教の普及とともに発達しました。

江戸時代に入り、世の中が落ちつく一般庶民の旺盛な知識欲と経済の発展などを背景として、寺社のお札・書籍・地図・暦引札・浮世絵などあらゆる分野の出版活動が一段と盛んになりました。

このように木版印刷が盛んになると、これを制作する者の間に分業化が進みました。

まず作者と版元が企画し、筆耕の手で浄書され彫師そして摺師に渡り製本された本は本屋で販売され、世界で最も発達した木版印刷文化が開花しました。



◆寺社と印刷

江戸時代は、宗教そのものが幕府の支配機構の下に組織されました。幕府は寺院法度によって仏教寺院を法的に規制し、これに抵抗する宗教については徹底的に弾圧を加えました。

しかし、一方印刷技術の発達は一般庶民の生活文化を高揚させ、観光や遊興については旅と宗教が結びついたことにあります。

全国的なものには、伊勢参宮・高野参詣・出羽三山参りなどがあります。また少し狭い範囲では霊場信仰として、成田不動・長野善光寺・浅草観音などがあります。本県では、置賜最上・庄内の各観音参詣が今もつて続いています。お行衣・笈摺・お姿・お札などは、木版印刷が最近まで使われました。

◆遊びと印刷

鳥崎藤村の「生い立ちの記」にはつぎのような節があります。

「都会の子供たちと違い、玩具もそう自由に手に入りません。私は竹と半紙で「するめ紙鳶」を手作りすることを覚えました。それを

村はずれの岡の上へ持って行って、他の子供と競争で揚げました。」明治までの子ども遊びの大半は、山川草木をはじめ、動物・鳥魚・昆虫など自然界のすべてを友とし、四季を観察し、寒暖を肌で感じました。

しかし、鉄道の開通・教育の普及は、都会から田舎へと政治・経済・文化の波が押し寄せ、遊びの形も外から内へと変化し、絵によって遊び方が紹介されました。

◆木鈴と版画

中川木鈴 大正八年(一九一九)真室川町に生まれる。昭和十八年(一九四三)青龍社児玉三鈴氏に師事、日本伝統木版彫刻師として、国宝「源氏物語絵巻」や、広重の「東海道五十三次」の復刻にたずさわり、失われつつある文化遺産を伝統の木版画によって再現するという偉業をなしとげました。

また、創作版画も数多く制作、その卓越した版画技術は広く認められ、昭和三十年(一九五五)東京都から日本伝統版画技術重要無形文化財に指定されました。

代表的な作品として、「寸涼」や旧制高等学校シリーズの旧制山形高等学校「雪景」などがあります。

◆やきものと印刷

食膳に組み込まれる器は、一組二十個が単位で絵柄も同一であることが要求され、しかも大量生産の必要が求められます。

これらのことから、特に江戸から明治にかけて流行したのが印刷手法による絵付けです。

絵付けの種類は、①型紙による摺絵付け、②凸判・平版による絵付け、③銅版転写紙による三つの方法があります。

特に明治になると、文明開化による技術革新によって大盛行しました。山形の平清水焼の陶磁器にも印刷手法による技術の影響が見られます。

◆絵はがき

私製絵はがきの仕様が認められるようになったのは明治三十三年(一九〇〇)です。これ以後、特に絵はがきが普及するようになったといわれています。

山形県内で印刷された絵はがきをみると、「おらが村・おらが町の」と言うようなものから個人の料亭や温泉旅館そして風俗に至る紹介など、宣伝を意図したものが多くあります。

他に自然と文化財を主題にした名所旧跡をはじめ、役所橋梁・道路などの建造物をあつかったものなど、セピア色の絵から時代の移り変わりが読みとれます。

◆豆本

豆本の魅力は可愛らしさにあり、それは本の形が小さいところからきているからです。小さいものに関心があるのは、なにも子どもだけではなく、大人まで幅広い年齢層にあります。このことは、世界各地に共通しています。

豆本の起源は、古代のエジプトやアッシリアで粘土や、石に文字を刻んだものが見られ、持ち運びしやすことから、神聖なお守りとして仏典・聖書・コーランなどの経典が作られました。

わが国の「百万塔陀羅尼」も最も古い豆本と言えます。山形県では、やまがた豆本の会、みちのく豆本の会刊行の豆本が知られています。